

# 2021年度事業計画

## 1 財団運営

昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、コンベンション誘致事業、米子コンベンションセンター管理運営事業ともに非常に厳しい現状ではあるが、地域との連携、ネットワークの構築を強化し、周辺環境や地域のニーズに呼应した柔軟かつ効率的な事業運営に努める。

### (1) 人材育成・組織体制の強化

- ① 人材の高度化を図るため、職位・職責にあった人材育成プログラムの実施
- ② キャリア形成のための外部研修への参加及び資格・技能取得の推奨
- ③ 米子コンベンションセンターのより効率的な業務運営のため、技術職、事務職の垣根のない組織体制の運用強化

### (2) 財源の確保

#### ① 資金運用計画

基本財産の運用については、資金運用規程に則し、基本財産運用計画(別紙3)により、安全性・確実性を考慮した運用を行う。(2021年度運用変更点なし)

### (3) 職場環境の適正化

- ① 男女共同参画の推進(鳥取県男女共同参画推進企業認定を受けてのより良い職場環境づくり)
- ② 職員の能力を最大限に発揮し成果をあげるため、各人がいきいきと働ける職場風土づくり、ワーク・ライフ・バランスの実現のための各種休暇制度等、労働環境の整備。

### (4) CSR経営の推進

- ① 環境への貢献(TEAS II(鳥取県版環境管理システム)の運用による環境に配慮した財団運営、グリーンコンベンションの推進、環境美化活動への積極的な取り組み)
- ② 公益法人としてのコンプライアンスの徹底(コンプライアンス行動基準の周知、実践)
- ③ 人権の尊重・保護の啓発(人権教育の実施、啓発の推進)

## 2 コンベンション誘致事業

全県でのコンベンション誘致事業については、中期(5か年)計画として2020年度10万人誘客を目標に活動し、2018年度には約86,000人まで達したが、昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響や国際定期便の路線廃止・休止等、周辺環境が大きく変化してきている。オンライン、ハイブリッド開催等新しい開催様式が試行される現状ではあるが、コンベンションの小規模化や地方での開催可能性の拡大等、新たな様式下での開催地としてのニーズを探り、豊かな自然・食といった鳥取県の強みを生かした誘致を推進していく。また、延期となった東京オリンピック終了後の機運を有効に活用し、スポーツ大会(特に生涯スポーツ)や大学等の合宿をターゲットに受け入れ態勢の強化を図っていく。

### (1) 誘致推進事業 (6,706千円)

#### ① 誘致推進

##### (ア) 学術会議・一般大会(国際会議含む)

県内外の事務局に対してきめ細かい誘致活動及びキーパーソンの招請等により、県内開催を促す。

##### (イ) スポーツ大会

県内外の関係団体と連携を図りながら、特に経済波及効果の高い生涯スポーツ大会(シニア、レディース等)を重点に誘致推進する。

##### (ウ) 企業コンベンション・インセンティブツアー

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった案件への再提案、商談会等参加や他ビューローからの情報収集により、新たなターゲットを構築し、窓口となる旅行代理店及び企業へ支援内容も含め鳥取県らしい提案を行う。特に、インセンティブツアーについては、鳥取県観光連盟と連携し効率的にセールスを行う。
- ・県内の温泉旅館等、受け入れ施設と連携を強化し、助成制度の有効な活用を図る。

##### (エ) MICE(海外インセンティブツアー)

新型コロナウイルス感染症の状況や国際定期便の就航状況を踏まえ、JNTO等の海外インセンティブ商談会への出展や現地旅行会社訪問の実施。

##### (オ) 合宿

近隣県大学等への情報発信を重点とし、新型コロナウイルス感染症の回復状況により、従来の関西圏を中心とした旅行代理店・大学生協等に加え、アクセスが向上した中部・東海地方についても情報発信を行っていく。

#### ② 県人会、同窓会等を通じた情報収集及び人脈づくり

#### ③ コンベンション開催意向調査

県内主催者を対象に、コンベンションの開催意向及び関係諸団体の全国大会等の開催状況についてアンケート調査を実施し、誘致・支援に活用する。

調査先： 県内大学・高専、県内事務局、会議施設、行政機関等

調査時期： 7月頃

調査件数： 約1,200団体

④ 各種協議会への参加

(ア)「JCCB(日本コンGRES・コンベンション・ビューロー)」総会【6月:東京】

CB 部会【7月:上越市】

CB 部会【12月:姫路市】

(イ)「中国・四国地区コンベンション推進協議会」総会【7月:岡山市】

⑤ 各種商談会への出展

(ア)「日本政府観光局(JNTO)」インセンティブ旅行セミナー【時期未定:台中・台北】

インセンティブ旅行セミナー【時期未定:韓国】

(イ)中国・四国地区コンベンション誘致懇談会【12月:東京】

(ウ)国際MICEエキスポ(IME2022)【2月:東京】

(2) 開催支援事業 (11,938千円) (開催助成金: 45,000千円)

県内開催コンベンションの円滑な運営を支援するため、主催者への財政的・物的等支援を行い、また、参加者に対し、おもてなしを通して鳥取県の魅力をPRする。

① 財政的支援: 開催助成金交付

② 感染症対策支援: 感染症対策支援助成金交付 (3,000千円)

期 間: 2021年4月1日~9月30日まで

助成対象: 支援対象コンベンションのうち、参加者数100人以上で過半数が宿泊を伴う県外者であるもの

助成内容: コンベンション開催時の感染症予防対策に要する経費

(参加規模により上限30万円まで)

③ 物的支援: 歓迎看板、コンベンションバック、地元特産品、観光パンフレットの提供等

④ その他の支援

(ア) 会場手配、業務応援、コンベンション会場に観光案内・県内特産物の販売所の設置

鳥取県観光連盟・地元観光協会・鳥取県食のみやこ推進課等と連携し、観光情報の提供・県内特産物の販売を通じて県外参加者に鳥取県の魅力をPRする。

(イ) 大会ホームページに開催地域の観光・イベント等情報集約サイトのバナー添付を推進し、事前に開催地の最新情報を提供することにより、参加者のアフターコンベンションを促す。

(ウ) コンベンション事務局運営支援

「コンベンション開催マニュアル」や「コンベンションおもてなしメニュー」等を活用し、事務局運営や組み立て方をアドバイス・支援する。

(3) 調査企画事業 (1,795千円)

① コンベンション参加者アンケート調査 (1,204千円)

コンベンション参加者を対象に、意見・感想や大会期間中の行動パターン、必要経費等についてアンケート調査を実施し、経済波及効果の推計及びおもてなし度向上の取り組みに役立つよう、結果を広く周知する。また、WEB化により回答率の向上と集計の省力化を図る。

調査先: 35件 約25,000人 (別途 Web アンケートのみ 10件 約2,000人)

調査時期: 通年

調査結果：翌年5月頃 理事会、機関紙、マスコミなどで発表

② 経済的波及効果の推計調査

調査時期：通年

調査結果：翌年5月頃 理事会、機関紙、マスコミなどで発表

③ コンベンション事業説明会・交流会 in 中部の開催（591千円） 2020年度より延期

県内の主催者と賛助会員を中心としたコンベンション関連事業者及び観光関係者を対象とし、コンベンション誘致事業及び受け入れ状況を説明するとともに、主催者と関係事業者との交流の場として、相互情報交換の機会を創出する。

内 容：事業説明・交流会

対 象：県内コンベンション主催者（各種団体事務局、大学教授等）、コンベンション関連事業者

開 催 月：未 定

開 催 地：倉吉市

(4) 広報宣伝事業（2,150千円）

① ホームページ等による情報発信（534千円）

・コンベンションの開催情報や開催支援制度、また県内のコンベンション施設、宿泊、飲食、観光などの情報を主催者及び関係諸機関に的確かつタイムリーに提供する。

・観光・イベント等情報集約サイト「とっとり・楽しいガイド」の運用により、大会ホームページへのサイトバナーの添付を推進し、事前情報提供の強化により参加者のアフターコンベンションを促す。

・オンライン、ハイブリッド開催となったコンベンションでのオンライン参加者に対する鳥取県観光・物産情報発信の要請及びツールの作成を行う。

② 機関紙「Heart Field」の発行（620千円）

機関紙を発行し、コンベンションの意義や地域振興への効果、財団の活動状況などを県民や関係業界等に広く情報発信する。

発 行 月：6月、10月、2月

発行部数：約2,300部

配 布 先：賛助会員、県内大学、県内団体事務局、行政機関、観光施設

③ 新聞等に広報宣伝記事を掲載し、コンベンションの意義や地域振興への効果、財団の活動状況などを県民や関係業界等に広く情報発信する。（220千円）

④ 文化・観光施設割引券 WEB 版の配布（42千円）

コンベンション参加者のアフターコンベンションを誘発するため、県内主要観光施設、文化施設の優待割引券 WEB 版を作成し、会場において参加者に割引券 QR コードを周知する。

施 設 数：50施設（東部18、中部10、西部22）

⑤ 大会歓迎ステッカー（734千円）

コンベンション参加者の歓迎と地元へのコンベンション開催の周知のため、歓迎ステッカー及びタクシーステッカーを作成し、開催期間に合わせ掲出する。

作成部数：歓迎ステッカー 10件 3,500部      タクシーステッカー 6件 1,800部

### 3 米子コンベンションセンター管理運営事業(指定管理者事業)

#### 【管理運営方針】

- 交流人口増大による地域のにぎわい創出の実現
  - ・大会・学会・展示会・イベント開催による地域経済の活性化
- 感動を共有する心豊かな文化・芸術の拠点づくり
  - ・様々な文化活動を専門スタッフが技術サポート
- 公平な利用機会の確保と安心・安全・満足の追求
  - ・安全で快適な利用環境と顧客満足度の高いサービスの提供
- 効率的で環境に配慮した会館運営と積極的な利用促進
  - ・効率的な運営による経費削減と積極的な営業活動を実施
- 公益法人としてのミッションと行政との連携
  - ・県内産業の振興・文化の向上に寄与する管理運営と設置者との連携強化

組織改編による自主企画事業推進及び危機管理体制の強化、業務効率向上をさらに推進させるとともに、コロナ禍における感染予防対策の適正かつ迅速な対応と、社会情勢の変化に即したサービスの提供と利用促進策など既存概念に囚われない柔軟な施設運営を目指す。

|                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 年間稼働率目標(※主要施設平均)： 75% | 年間利用料収入目標： 10,000万円 |
| 年間利用者数目標： 30万人        |                     |

※楽屋、楽屋事務室、リハーサル室、スタッフルーム、特別控室、情報プラザを除く

#### (1) 利用者サービス

- ① インターネットによる利用申込手続きの対応  
従来の書類による申込手続きに加えインターネットによる手続きを導入することにより、利用者の利便性向上、事務の効率化、接触機会の削減による安全性向上を推進する。
- ② ワンストップサービスの充実  
利用者の利便性向上を目的に、ワンストップサービスの充実を図る。
  - ・看板作製……会議室・小ホール利用者向けに、看板作製の請負い
  - ・有料ゴミ袋販売……処理費用の含まれたゴミ袋の販売
  - ・ピアノ調律……調律師の手配、精算を備品代と併せて一括精算
  - ・大会運営用品貸出……テーブルクロス等、館内備品以外の物品の貸出し
  - ・国際会議室レイアウト楽得パック、多目的ホール楽得パック
  - ・情報プラザレイアウトサービス
  - ・インターネット回線「専有接続」サービス
  - ・割引・練習プランほか
- ③ 利便施設の充実  
利便施設の充実を積極的に推進し、サービスの向上を図る。
  - ・ビジネスコーナーを1階ロビーに設置……パソコン、コピー・FAX複合機のコーナー

・会議室(第1~8)に高速無線LANアクセスポイントを設置・・・フリーWi-Fi接続可

- ④ 顧客満足度、利用者の声を様々な方法で収集し、サービスの向上に活かす。
  - (ア) 館内にアンケートBOXを設置し意見・要望の把握
  - (イ) 利用後のチェックシート回収時(鍵返却時)聞き取りを継続実施
  - (ウ) 利用者懇談会開催等による意見・要望の収集・把握

## (2) 利用促進

利用実績のある主催者へのフォロー強化と、新規の利用へと繋がる提案営業を通じて、積極的な利用促進を図りつつ、企画営業の活動内容の見直しと在り方を検討し新たな利用の獲得に努める。

- ① 利用者の潜在的なニーズを探りながら、より効果的な利用提案ができる企画営業力の強化
- ② 誘致部門と連携した、地域へ様々な波及効果をもたらす全国大会などの大型コンベンションの獲得
- ③ 利用者へのフォロー強化による継続利用促進
- ④ 蓄積されたデータベースを活用し、イベントの特性に合わせた効果的な利用提案
- ⑤ 利用者のニーズに合わせた新しい会議室の貸出形態(半面予約の制限一部変更)の運用

## (3) 広報関連

様々な媒体を使い、開催されるイベントや当センター情報を積極的に広報する。

- ① ホームページ上で Google ストリートビューと連動した施設照会やセンターPR動画を活用した効果的な情報発信
- ② イベントガイド情報紙(隔月発行:ペーパーレス化の推進)
- ③ 地元ケーブルテレビ文字放送「生活チャンネル」(毎日放送)
- ④ Twitter と Instagram の公式アカウントを取得し、各種情報のタイムリー且つ広範囲での情報発信を行う。

## (4) 地域連携

担当職員の配置により自主事業及び地域連携の強化を図り、地域のにぎわい創出に努める。

- ① 「食のみやこ鳥取県西部フェスタ連絡協議会」等の地元主体の実行委員会への参画
- ② 地域の様々な団体が参加できる自主事業等に参画し周辺施設と連携
- ③ 地域で企画された公益に資するイベントへのボランティアスタッフの派遣

## (5) 施設管理

施設・設備を常に良好な状態に維持することに努めるとともに、省エネの取り組みを継続する。

- ① 予防修繕の取り組み継続による施設・設備の延命
- ② 省エネ型照明器具等の導入、不要箇所の照明消灯、温度管理の徹底による重油使用量の削減等の取り組みを継続
- ③ 災害発生時に安全に来館者を避難誘導できるよう避難誘導訓練(年2回)と救命救急講習を実施
- ④ 各職員に対するBCP及び各災害対応マニュアル等の教育を強化することにより、災害時対応力向上を図る。また、BCPで必要になる未整備事項については、継続して県・市へ積極的に提言していく。

## (6) グリーンコンベンションの取り組み

グリーンコンベンションの取り組みを主催者・利用者に拡大するよう普及啓発を図る。

- ① グリーンコンベンションの啓発
- ② 鳥取県版環境管理システム(TEAS)に基づく環境改善

## (7) 自主企画事業（1,200千円）

当センターの設置目的・ミッションに沿って各種自主事業を企画し実施。地域住民へ当センターに親しんでもらえる機会を提供し、交流人口の拡大に取り組む。

### ① ビッグシップコンサート（560千円）

対象を一般と親子に分けて年2回の開催とする。一般対象はビッグシップイルミネーションと融合し、光と音の空間を演出する。また親子対象は子育て等によりコンサート鑑賞が困難な親子に向けたアットホームな内容とする。

内 容： 感染予防対策の観点も踏まえ、開放空間である多目的ホールホワイエでのサロンコンサート形式とし、開放的で気軽に参加できるスタイルを基本コンセプトとする。

実施時期： 8月(親子対象)・12月(一般対象)

開催場所： 多目的ホールホワイエ

入場者数： 各200名

入 場 料： 500円

### ② ビッグシップ航海デー（640千円）

当地域で活動している様々なジャンルにわたるクリエイターや団体の交流の場として、多目的ホール(平土間仕様)を1日開放し、コンベンションセンターと地域が連携したにぎわい創出を図る。

内 容： (ア) 出展ブース

地域で活動中の作家や団体を募り様々な手作り作品の展示販売を行い、来場者が体験できるワークショップなども実施する。

(イ) 飲食ブース

当財団の賛助会員を中心に出店者を募りご当地グルメ等を提供

実施時期： 12月

開催場所： 多目的ホール(全面平土間仕様)

参加者数： 2,500名

入 場 料： 無料

### ③ ビッグシップ探検ツアー

施設をより身近に感じていただくために、普段立ち入ることの出来ないエリアも広く一般公開し、米子コンベンションセンターのファン拡大を図る。

内 容： 多目的ホール床機構及び舞台機構や音響・照明等の設備見学や操作体験等

実施時期： 2月

開催場所： 多目的ホールほか

参加者数： 60名程度  
対 象： 近隣地域住民

#### 4 地域振興事業基金事業

会館運営努力で生み出した地域振興基金を活用し、地域経済の発展、文化の振興、利用促進を念頭に置きながら、将来に渡って地域振興・文化振興をさらに進めることを目的に事業実施及び新事業計画の企画を行う。

##### (1) 地域のコンベンション振興に資する事業 (2,845千円)

###### ① 利用者団体支援事業

###### (ア)助成金交付(1, 240千円)

当センターを利用する展示会及び県民を対象とした催事のうち、規定の条件を満たす利用団体に対し施設利用料の一部を助成するなどの開催支援を行い、地域経済の振興に寄与するとともに、多目的ホール及び国際会議室に重点を置いた利用促進に繋げる。

対 象： 多目的ホール、国際会議室

内 容： ・ 長期利用者助成金(連続して3日以上7日以内)  
・ 新規利用者助成金(新規又は過去3年間以上利用が無い場合)

実施時期： 通年

###### (イ)企画共催支援 (1, 605千円)

地域の企業・団体等が実施する事業について当財団が共催者として関与し、相互協力と連携強化を図り事業推進することによって、地域の賑わい創出と交流人口拡大を通じて地域の活性化に寄与する。

対 象： ・鑑賞型事業

(県内のマスコミが幅広い文化事業に関して県民に鑑賞の機会を提供するもの)

・地域創造型事業

(県内の団体等が自ら参加・実施し、地域の賑わい創出に寄与するもの)

内 容： ・鑑賞型事業 施設利用料1/2を共催負担、優先予約受付、広報協力  
・地域創造型事業 施設利用料全額を共催負担、優先予約受付、広報協力等

実施時期： 通年

##### (2) 地域の文化活性化に資する事業 (1,733千円)

###### ① 演劇ワークショップ (15千円)

鳥取県西部の高校演劇部を対象に舞台・照明・音響技術の基本から実践までを職員が説明し、将来の文化活動者の育成を図る。

対 象： 県西部地区の高校演劇部(西部地区高等学校演劇祭に参加する学校8～9校)

内 容： 舞台・照明・音響に関するワークショップを開催し、米子CCで開催される鳥取県西部地区高校演劇祭を念頭に置き、舞台技術の向上に寄与する。



実施時期： 5月

② アート交流ひろば（564千円）

従来の出展者公募型から年度ごとのテーマを設定した開催形式に変更し、より密度の濃い作品展示の場として出展者とともに広報活動も強化することによって、より多くの来場者獲得を図る

内 容：「子どもの未来とSDGs」をテーマに、未来を担う子どもたちが未来の社会を想像し、なりたい自分や理想の世界を表現した作品展示を通してSDGsの啓発とコロナ禍における社会に希望を届けることを目的とする。

実施時期： 7月

場 所： 情報プラザ

入 場 料： 無料

③ ビッグシップイルミネーション（860千円）

鳥取県電業協会、レストランル・ポルト等との連携協力によりクリスマスイルミネーションを設置し、隣接する米子市文化ホール及び米子彫刻ロードと一体となった地域の賑わいを創出する。

内 容： 構内樹木LED電飾（レストラン前・情報プラザ前等）、交流の池水中LED電飾、ホール棟及び会議棟のライトアップなど。フォトコンテストも実施し写真愛好家の作品発表を通じてセンター及び周辺地域の魅力発信も図る。

実施時期： 12月～1月

場 所： センター構内各所

④ 皆生温泉開発100周年記念企画展（294千円）

実行委員会事務局（米子市、米子市観光協会、皆生温泉旅館組合）と連携し、巡回展としてセンターで開催する。

内 容： 皆生温泉100年の歩みの顕彰を目的としパネル展を開催する。センターを含め市内複数会場（山陰歴史館、米子市観光センター等）の巡回開催形式。

実施時期： 春期～夏期

場 所： 情報プラザ

**(3) 施設予約管理システムの機能追加（17,052千円）**

利用者の利便性並びに業務効率の向上の為、予約管理システムのWEB申込機能、催事情報管理機能等を追加することにより、業務平準化を軸とした組織改編による効率的且つ高度な施設運営体制をさらに推進する。

- ・業務委託先 株式会社ケイズ
- ・開発期間 2021年4月1日～2021年9月10日
- ・運用開始 2021年10月1日（予定）